鳥取県の地震

２０２５年（令和７年）１月

鳥 取 地 方 気 象 台

目　　次

（１）鳥取県とその周辺の地震活動
震央分布図及び断面図、概況 ………………………… 1
震源リスト（M2.0 以上） ………………………… 1
（２）鳥取県内で震度１以上を観測した地震
震度のリスト ………………………… 2
震度分布図 ………………………… 3
（３）地震・津波の知識
長期評価による地震発生確率値の更新について ………… 4

・　本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。

　また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS） の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。

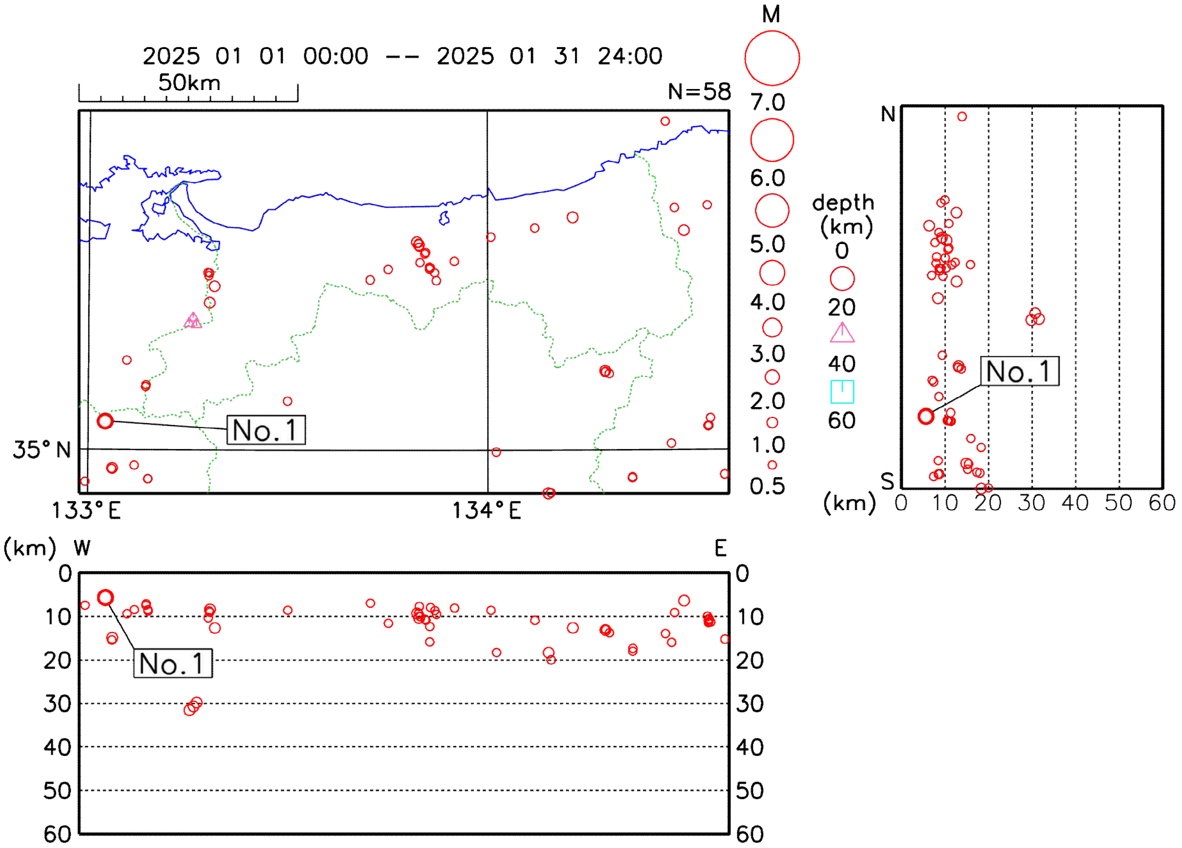
・　本資料の地震の震源要素、震度データ及び発震機構解等は再調査された後、修正されることがある。

＊　広域の地震については、大阪管区気象台作成の「大阪管内地震活動図」をご覧ください。

大阪管内地震活動図ＵＲＬ　https://www.data.jma.go.jp/osaka/jishinkazan/divos_monthly.html

（１）鳥取県とその周辺の地震活動

［震央分布図・断面図］



［概　況］

2025 年１月に鳥取県内の震度観測点で震度１以上を観測した地震は１回（前月は１回）でした。

13 日 21 時 19 分 日向灘の地震（深さ 36km、M6.6 ： 上図の範囲外）により、宮崎県高鍋町・新富町・宮崎市で震度５弱を観測したほか、東海・甲信越・北陸・近畿・中国・四国・九州地方にかけて震度４～１を観測しました。鳥取県内では境港市で震度３を観測したほか、県内の多くの地点で震度２～１を観測しました。

上記震央分布図内において、M2.0 以上の地震は１回（前月は２回）でした（番号は震源リストに対応）。

［震源リスト(震央分布図内のM2.0 以上の震源リスト)］

No.	発震時（年 月 日 時 分）	震央地名	北緯	東経	深さ(km)	マグニチュード	最大震度
1	2025 年 01 月 12 日 23 時 42 分	広島県北部	35° 3.5’N	133° 2.5’E	6	2.3	―

（２）鳥取県内で震度１以上を観測した地震

［鳥取県内で震度１以上を観測した地震及び震度のリスト］

発震時（年 月 日 時 分）	震央地名	北緯	東経	深さ	ﾏｸﾞﾆﾁｭｰﾄﾞ
2025年01月13日21時19分	日向灘	31゜ 49.7’N	131゜ 34.2’E	36km	M6.6

---------- 地点震度 ----------

鳥取県　震度 3 ： 境港市東本町,境港市竹内町＊

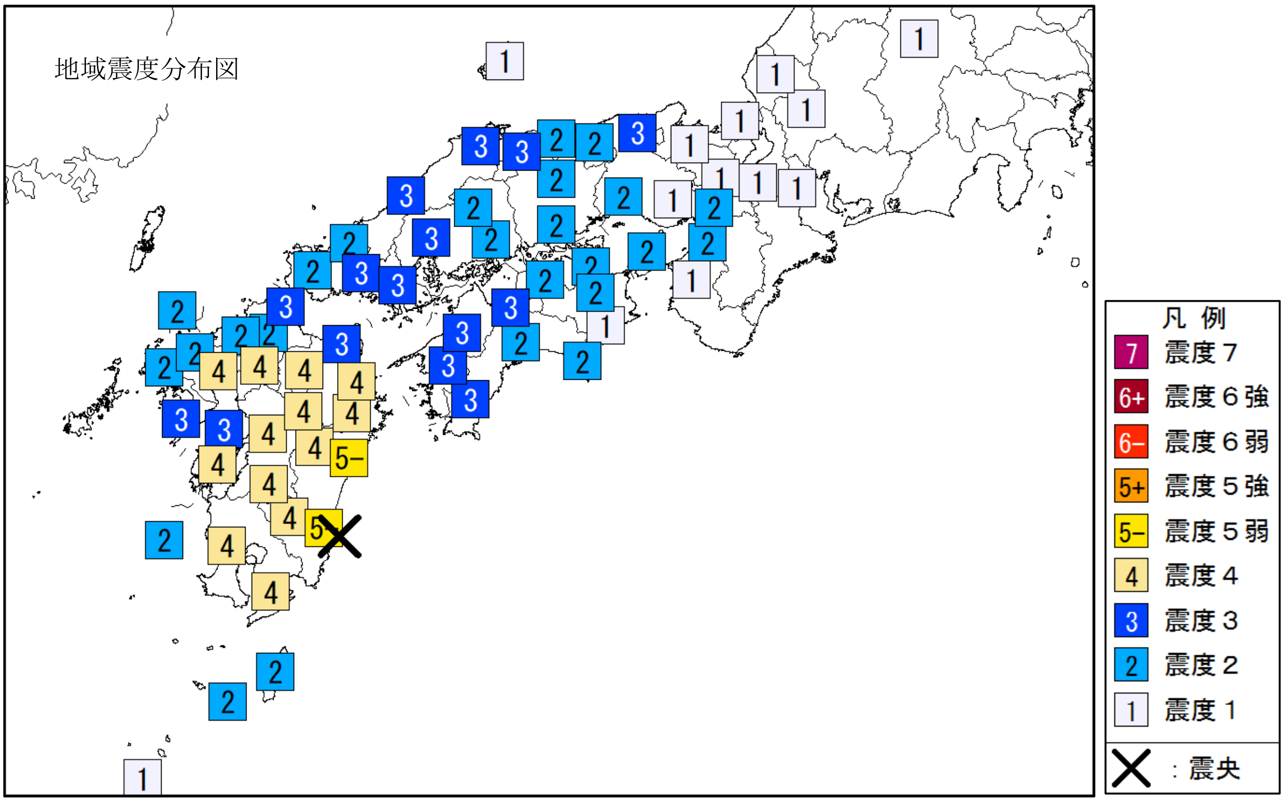
震度 2 ： 鳥取市吉方,鳥取市吉成＊,鳥取市福部町細川＊,琴浦町徳万＊,湯梨浜町久留＊
湯梨浜町龍島＊,米子市東町＊,米子市淀江町＊,大山町御来屋＊

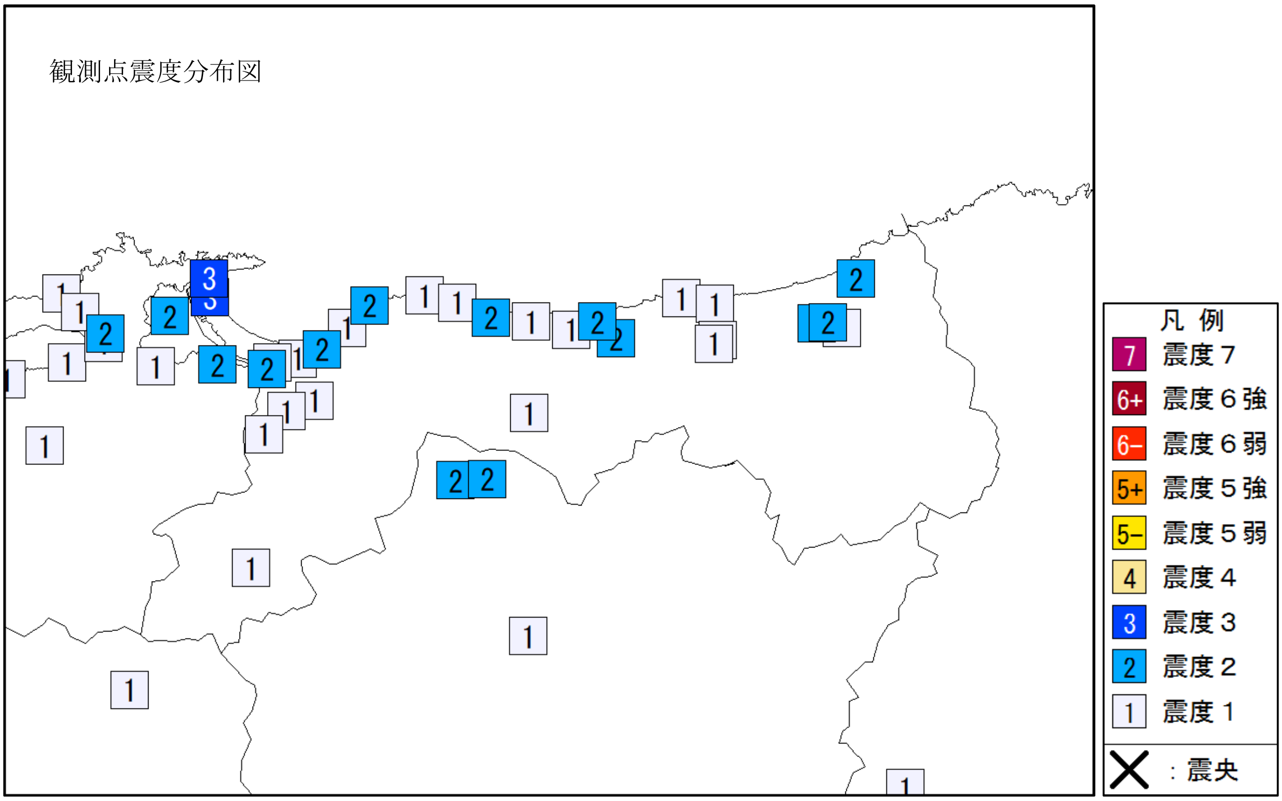
震度 1 ： 鳥取市鹿野町鹿野小学校＊,鳥取市鹿野町鹿野＊,鳥取市国府町宮下＊
鳥取市気高町浜村＊,鳥取市青谷町青谷＊,倉吉市関金町大鳥居＊,琴浦町赤碕＊
北栄町由良宿＊,北栄町土下＊,米子市博労町,日吉津村日吉津＊,大山町末長＊
大山町赤坂＊,日南町霞＊,鳥取南部町法勝寺＊,鳥取南部町天萬＊,伯耆町吉長＊

・＊印のついている地点は、鳥取県または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

［鳥取県内で震度１以上を観測した地震の震度分布図（図中×は震央）］

2025 年 01 月 13 日 21 時 19 分　日向灘





（３）地震・津波の知識

長期評価による地震発生確率値の更新について

政府の地震調査委員会は、主要な活断層や海溝型地震を対象に、地震の規模や一定期間内に地震が発生する確率を予測したものを「地震発生可能性の長期評価」（長期評価）と呼び、毎年１月１日に算定し結果を公表しています（令和７年は１月 15 日公表）。

このうち海溝型地震における評価対象の一つである南海トラフ沿いで発生するマグニチュード８～９クラスの地震については、今後 30 年以内に発生する確率が、これまでの「70～80％」から「80％程度」に更新されました。

南海トラフの地震の発生確率値の更新前後の比較（算定基準日 R7.1.1）

	2024年1月1日時点の評価	2025年1月1日時点の評価
M8～M9クラス	Ⅲ＊ランク	Ⅲ＊ランク
平均発生間隔	88.2年	
ばらつきα	0.20-0.24	
経過率	0.88	0.90
10年	30%程度	30%程度
20年	60%程度	60%程度
30年	70%～80% (74%～81%)	80%程度 (75%～82%)
40年	90%程度	90%程度
50年	90%程度もしくはそれ以上	90%程度もしくはそれ以上
100年	90%程度以上	90%程度以上
300年	90%程度以上	90%程度以上

海溝型地震のランク分けの凡例

ランク分け		３０年以内の地震発生確率
Ⅲランク	（高い）	２６%以上
Ⅱランク	（やや高い）	３～２６%未満
Ⅰランク		３%未満
Xランク	地震発生確率が不明（過去のデータが少ないため確率の評価が困難）	

算定基準日における地震後経過率が 0.7 以上である海溝型地震については ランクに「＊」を付記する。

◆ ランク分けについて

上記表内「Ⅲ＊ランク」とは、Ⅲランクのうち地震後経過率が 0.7 以上の海溝型地震に「＊」を付したものです。南海トラフの地震の場合は、1946 年の昭和南海地震から平均発生間隔である 88.2 年が経過すると、地震後経過率が 1.0 となります。

「Ⅲランク」とは今後 30 年以内の地震発生確率が 26％以上で、確率が「高い」のランクに分類されます。以前は確率のみを公表していましたが、確率が分かりにくい、確率が低い場合は「地震のリスクが小さい」といった誤った印象を与えるおそれがあることから、平成 28 年（2016 年）熊本地震以降、長期評価にランク分けが導入されました。

◆ 地震発生確率について

今回、地震発生確率が「80％程度」という数字はどのように捉えるべきでしょうか。前回からの確率が 10％上がったわけではありません。詳細な算定値は前回が「74～81％」、今回が「75～82％」となり、細かな値に捉われないよう数字の一の位を四捨五入し「80％程度」と表現しています。

いずれにせよ 70％や 80％という数字はいつ地震が起こってもおかしくない確率です。南海トラフ地震は必ず来る、という視点に立ち、いつ地震が発生しても対応できるよう、機会を捉え日頃からの備えを再確認することが大事です。

○ 令和７年１月 15 日 地震調査委員会公表「長期評価による地震発生確率値の更新について」

https://www.static.jishin.go.jp/resource/evaluation/long_term_evaluation/updates/prob2025.pdf

そのほかの地震活動の詳細については、気象庁ホームページまたは『令和７年１月地震・火山月報（防災編)』をご覧ください。

ＵＲＬ　https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/gaikyo/

問い合わせ先：鳥取地方気象台

TEL：０８５７－２９－１３１３